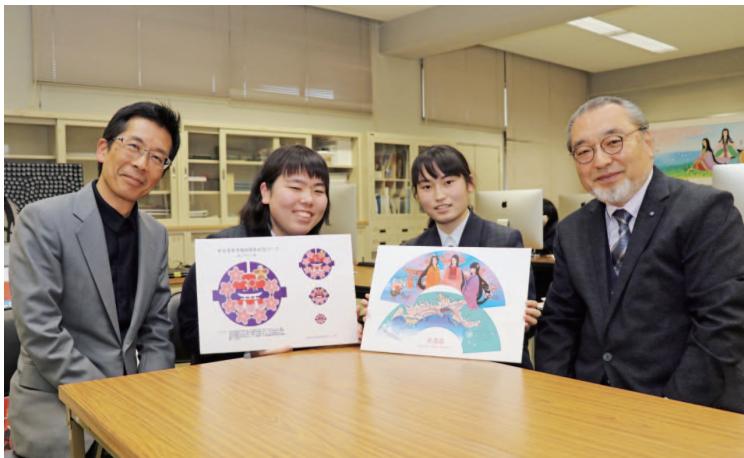


4月1日に市制施行30周年を迎えた廿日市市。今回、30周年記念ロゴマークを制作してくれた、宮島工業高等学校インテリア科の生徒7人のうち、2人についてお話をしました。

◀写真左から、林忠一さん（担当教諭）、竹本晴菜さん（3年）、大平真未さん（3年）、清水博雄さん（担当教諭）



30周年記念ロゴマーク



■ロゴマークを制作した感想を聞かせてください

最初は「30」という数字を全面に出すデザインから入ったのですが、みんなでアイデアを出し合った結果、「廿日市＝桜」のイメージと、市章を組み合わせることにしました。最初考えていたものよりも良いものができたと思いましたし、みんなで考えたアイデアが詰まつた、力のこもったものになつたと思います。地域の人たちも「素敵なデザインだね」と喜んでください、地域貢献ができると思います。

■工夫した点などを教えてください

繁栄を意味する「8」にちなみ、桜を8枚つなげることで、廿日市市がさらに発展し、市民が手を取り合って和になりました。また、桜の一つを金色にして、アニメーション（お祝い）感を演出しました。さらに、瀬戸内海に浮かぶ世界遺産・嚴島神社の大鳥居を取り入れ、廿日市市らしいデザインに仕上げました。

■描かれた場所を教えてください

ぼんやりとしたイメージしかない、最初の「無」の状態から形を作ることに苦労しました。とにかくスケッチにアイデアを書き出していき、みんなで協力してまとめました。外国人の人と接するときには「あなたに会えて嬉しい！あなたと話したい！」という気持ちを伝え、最初の壁を破る事が大事なんだと実感しました。西岡秀治

■今後の目標を教えてください

今回のロゴマーク以外にも、過去に先輩たちが、地元企業から依頼を受けて、商品のパッケージなどをデザインしたことがありました。今回の経験を生かして、私たちも地域に貢献できる活動を続けていきたいです。



2次元コードを読み込むとインタビュー動画を見ることができます（5月1日火～）。ぜひご覧ください。

編集後記

メキシコの選手たちを取材しました。スペイン語も英語もスラスラと話すことのできない私ですが、自分が知っている英単語、身振り手振りを交えて話をすると、相手に気持ちが伝わり、フレンドリーに話ができるようになりました。外国人の人と接するときには「あなたに会えて嬉しい！あなたと話したい！」という気持ちを伝え、最初の壁を破る事が大事なんだと実感しました。西岡秀治

「震災の前と後で、生き方が全く変わらないのは、人としてあまりにも鈍感すぎる」。東日本大震災発生から1年。当時、学生で周りに九州出身者が多く、友人の実家の被害や報道に心を痛めました。つい、毎日を忙しく過ごしていましたが、被災地のこと、日頃の備えの大切さを今一度考えたいと思いました。

瀧谷里香

はつかいら人 vol.28

廿日市市で輝く人を紹介します

広島県立宮島工業高等学校インテリア科

人のうごき

前月比

総人口	117,487人	(-98)
男	56,435人	(-63)
女	61,052人	(-35)
世帯	51,685世帯	(+97)

(平成30年4月1日現在、外国人を含む)